

年	遠藤周作の出来事	カトリック教会の出来事
1923年	3月27日 誕生	1月1日 公教青年会 会報を「公教青年時報」に改題（＝現「カトリック新聞」の創刊） 5月1日 上記時報、「カトリック・タイムス」に改題
1927年		7月11日 長崎司教に早坂久之助任命（初の邦人司教）
1928年		『ドン・ボスコ』創刊（『カトリック生活』前身）
1929年	大連市の大広場小学校に入学	10月17日 東京公教大神学校（現練馬区関町）、開校
1930年		4月24日 コンベンツアル聖フランシスコ修道会、長崎に来日（コルベ神父、ゼノ修道士、ヒラリオ修道士） 5月15日 同会『聖母の騎士』創刊
1931年		1月4日 「カトリック・タイムス」、「日本カトリック新聞」と改称
1932年	初めて作った詩が大連の新聞に掲載される。	4月17日 カトリック夙川教会現聖堂、完成・献堂 5月5日 上智大学靖国神社参拝拒否事件（～1933年12月）
1933年	両親が離婚し、母に連れられて日本に帰国。 神戸市六甲小学校に転校。	4月5日 全日本司教協議会開催（宣教師指針決議）
1934年		9月～ 奄美大島、大島高等女学校廃校、全宣教師、同島退去
1935年	兄と同じ旧制灘中学校に入学。 カトリック夙川教会で洗礼を受ける。	4月25日 全国教区長会議「共同教書」発表（神社参拝を愛国心と忠誠心の表明だけを意味するとしてこれを許容）
1936年		5月26日 教皇庁布教聖省、日本の教会に指針「祖国に対するカトリック信者の責務について」を通達
1940年		11月25日 『カトリック大辞典』第1巻発行（富山房）
1941年	上智大学予科に入学して籍を置くが、旧制高校を目指し、仁川で受験勉強を続ける。 論文「形而上的の神, 宗教的の神」（『上智』）を執筆。	5月3日 日本のカトリック教会、宗教団体法に基づき、日本天主教教団として認可 10月19日 教団直属の日本天主教出版社、設立
1942年	上智大学予科を退学。母に経済的負担をかけさせないように、世田谷区経堂の父のもとへ移る。	
1943年	慶応義塾大学文学部予科に入学するが、医学部を受験しなかったため父から勘当され、カトリック哲学者の吉満義彦が舎監をしていた学生寮に入る。	11月2日 企業統制令により、公教の諸出版社を統合する中央出版社 設立

1944年	戦時中のため授業はほとんどなく、勤労働員として工場で働く。 肋膜炎を患ったため、徴兵が一年延期に。	9月3日	神・仏・基からなる大日本戦時宗教報告会結成
1945年	東京大空襲で寮が閉鎖。 慶應義塾大学文学部予科を修了し、仏文科に進学。 入隊する直前に終戦となる。	2月25日 11月28～30日	「日本カトリック新聞」休刊 全国臨時教区長会議開催（日本天主教教団の解散と、天主教教区連盟の結成。「日本カトリック新聞」を「カトリック新聞」と改題して教区連盟の機関誌とし、印刷営業の聖パウロ修道会委託を決定
1946年		2月1日 5月8～10日 12月1日	「カトリック新聞」復刊 天主教教区連盟会議、東京・福岡への大神学校設置を決定 『聖母の騎士』復刊
1947年	エッセイ「神々と神と」（『四季』） 評論「カトリック作家の問題」（『三田文学』）	5月3日	東京カトリック神学院（イエズス会委託）開校
1948年		4月16日	福岡サン・スルピス大神学院開校
1948年	慶應義塾大学仏文学科を卒業。 ヘルツォーク神父が編集長を務める「カトリック・ダイジェスト」の編集を手伝う。	5月19～22日 11月11日	全国教区長会議で、天主教教区連盟をカトリック教区連盟と改称。 カトリック教区連盟事務所竣工（千代田区六番町）
1949年	この頃から文芸評論を盛んに発表する。	1月 4月17日 5月29日 10月4日	『家庭の友』創刊 カトリック麴町教会（聖イグナチオ教会）献堂式 ザビエル来日400年記念式典挙（～6月12日） 『世紀』創刊（～1994）
1950年	戦後初のフランスへの留学生として、リヨン大学大学院に入学。	4月	「カトリック新聞」編集・営業を聖パウロ修道会に全面委託
1951年	連載「赤ゲットの佛蘭西旅行」（『カトリック・ダイジェスト』、～1952年まで）	4月	『からしだね』（ドン・ボスコ社 1946～）『カトリック生活』に改称
1952年	体調を崩し吐血する。肺結核悪化。	1月 4月22～25日	教皇庁と日本の外交関係再開。教皇庁使節、教皇公使に昇格 全国教区長会議で、カトリック教区連盟を宗教法人「カトリック中央協議会」と改称して再登録
1953年	帰国するが、体調が回復せず寝ていることが多かった。 エッセイ集『フランスの大学生』刊行		

1954年	「マルキ・ド・サド評伝」（『現代評論』）	7月15日	ケルン大司教フリングス枢機卿、土井大司教に姉妹教区関係を提案、土井大司教応諾
		12月8日	同姉妹教区関係締結
1955年	「白い人」を発表し、芥川賞を受賞 短編集『白い人・黄色い人』刊行		
1956年			『あけぼの』創刊（聖パウロ女子修道会 ～2014）
1957年	「海と毒薬」（『文学界』）	5月9日	フリングス枢機卿来日（～6月4日）
1958年	「海と毒薬」で新潮社文学賞・毎日出版文化賞を受賞	5月15日	「公教会祈祷文」発行
1959年	最初のキリシタン小説「最後の殉教者」（『別冊文藝春秋』） ユーモア長編小説『おバカさん』刊行	4月8日	教区長会議「天主」、「神」など用語変更
1960年	肺結核が再発し、翌年3度の手術を受ける。 『聖書のなかの女性たち』刊行	3月	東京カトリック神学院新校舎完成
		3月28日	土井辰雄東京大司教、日本人初の枢機卿に親任される
		8月3日	『カトリック大辞典』全5巻完結
		9月	『聖書と典礼』創刊（オリエンズ宗教研究所）
1961年			
1962年	退院して自宅療養生活を送る。 絵日記「狐狸庵日乗」を書く（～1963年）。	2月	イエズス会長崎26聖人修道院・祝別
		6月1日	日本26聖人記念碑祝別、記念館竣工
		10月11日	第2バチカン公会議、開会（～1965年12月8日）
1963年		2月	東京大司教座関口教会聖マリア大聖堂（丹下健三設計）着工
1964年	『わたしが・棄てた・女』	12月8日	東京大司教座聖マリア大聖堂 献堂式
1965年		1月	日本司教団典礼委員会『ミサ典礼に関する司牧指針』
		3月7日	自国語典礼実施開始
		3月17～19日	日本信徒発見100周年祭挙行（長崎）
		10月28日	第2バチカン公会議「キリスト教以外の諸宗教に対する教会の態度についての宣言」公布
1966年	『沈黙』を刊行し、谷崎潤一郎賞を受賞 戯曲「黄金の国」（『文芸』）	5月10～13日	定例全国司教会議で日本カトリック司教協議会、結成
		6月14日	駐日教皇庁公使、大使に昇格
1967年		1月	日本キリスト教協議会（NCC）と日本カトリック司教協議会「キリスト教一致祈祷週間」を開始
1968年	素人劇団「樹座」を結成し座長に		

1969年	「母なるもの」(『新潮』)		教会暦1970年度より現行ミサ・典礼暦・聖書朗読配分
1970年	カトリックとプロテスタントの初の合同事業となる大阪万博の基督教館で、阪田寛夫、三浦朱門とともにプロデューサーを務め、三人でローマ教皇庁からシルヴェステル勲章(騎士勲章)を受ける。	1月29日 4月1日 10月16～21日	カリタスジャパン創立総会 東京カトリック神学院の運営、イエズス会から日本司教団に返還(学問的養成は上智大学神学部で継続) 世界宗教者平和会議(WCRP)第1回開催(京都)
1972年	宣教番組「心のともしび」の企画で、三浦朱門、曾野綾子らとともにローマを訪れ、教皇パウロ6世に謁見。	4月	日本聖公会とカトリックの共同委員会発足
1973年	『死海のほとり』『イエスの生涯』刊行	3月5日	田口芳五郎大阪大司教、枢機卿に親任(日本人2人目)
1974年		1月 4月22～27日	「カトリック新聞」、聖パウロ修道会から日本司教団に移管 アジア司教協議会連盟(FABC)第1回総会開催(台北)
1975年	『遠藤周作文学全集』(全11巻)刊行	6月	カリタスジャパン、ベトナム難民の引き受け開始
1976年		5月26日	日本カトリック映画視聴覚メディア協議会(OCIS・JAPAN)発足
1978年	『イエスの生涯』で国際ダグ・ハマーショルド賞を受賞。 『キリストの誕生』刊行	12月25日	日本語版『ミサ典礼書』発行
1979年	『キリストの誕生』で読売文学賞評論・伝記賞、日本芸術院賞を受賞。	6月3日	里脇浅次郎長崎大司教、枢機卿に親任(日本人3人目)
1980年	『侍』を刊行し、野間文芸賞を受賞		
1981年	前年より体調がすぐれず、高血圧、糖尿病、肝臓病に苦しむ。 日本キリスト教芸術センターを設立。	2月23～26日 4月22～28日	教皇ヨハネ・パウロ2世、来日 マザー・テレサ来日(第1回)
1982年	責任編集を務める『モーリヤック著作集』が刊行開始。	8月6～15日 10月1日	日本カトリック平和旬間(第1回) コルベ神父、列聖(ローマ)
1983年	『私にとって神とは』刊行		
1984年		6月18～23日	司教協議会「日本の教会の基本方針と優先課題」発表
1985年	『私の愛した小説—宗教と文学の谷間での解題』	1月 2月	『福音宣教』(オリエンズ宗教研究所)創刊 日本福音ルーテル教会とカトリックとの共同委員会発足
1986年	『スキャンダル』刊行	9月16～25日 10月27日	アジア司教協議会連盟第4回総会開催(東京、白柳誠一大司教、閉会) ミサで「戦争責任」を表明) アジジ世界平和祈祷集会開催
1987年		9月5日 11月20～23日	『聖書 新共同訳』発行 第1回福音宣教推進全国会議(NICE-1)開催(京都)

1988年	文化功労者に選ばれる	12月13～16日	臨時司教総会、典礼書と司教団文書における「イエス」表記を決議
1991年		4月	中央協議会事務局に出版部を新設
1992年		2月2日	『カトリック新教会法典』日本語訳出版
		11月11日	日本カトリック会館（江東区潮見）竣工（中央協議会 新会館）
1993年	腹膜透析のための手術を受け、その後3年半、入退院を繰り返す闘病生活が続く。 『深い河』刊行。	10月21～24日	第2回福音宣教推進全国会議（NICE-2）開催（長崎）テーマ「家庭」
1994年	最後の歴史小説「女」を連載。 『深い河』で毎日芸術賞を受賞。	11月26日	白柳誠一東京大司教、枢機卿に親任される（日本人4人目）
1995年	文化勲章受賞	2月2日	大阪教区、阪神淡路大震災を契機に「新生基本方針」を発表
1996年	9月29日 死去	6月	上智大学編『新カトリック大事典』第1巻出版（研究社）